

7 媒介変数表示

34 [三角関数による媒介変数表示] 2次曲線は媒介変数 θ と三角関数を用いて、次のように表せる。

(1) 円 $x^2 + y^2 = r^2$ の媒介変数表示

$x =$

$y =$

(2) 楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ の媒介変数表示

$x =$

$y =$

θ は P の偏角であり、Q の偏角ではないことに注意。

(3) 双曲線 $\frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1$ の媒介変数表示

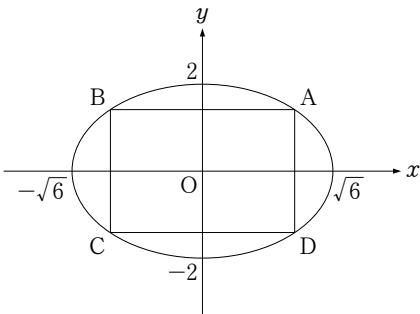
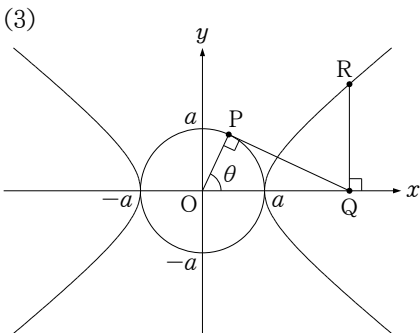
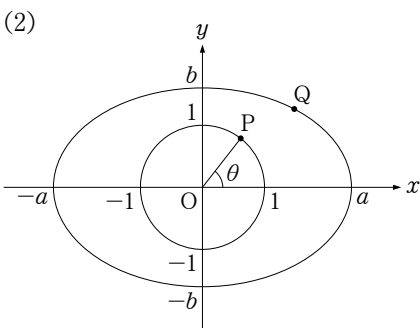
$x =$

$y =$

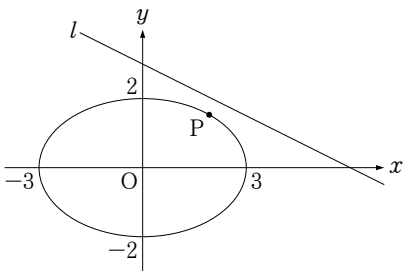
これは公式 $\tan^2\theta + 1 = \frac{1}{\cos^2\theta}$ に由来している。

(2), (3) に使われている媒介変数 θ を離心角とよぶことがある。

35 [媒介変数表示の利用] 楕円 $\frac{x^2}{6} + \frac{y^2}{4} = 1$ に内接し、各辺が座標軸に平行である長方形の面積の最大値を求めなさい。



36 [媒介変数表示の利用] 楕円 $\frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{4} = 1$ 上の点 P と、直線 $l: x + 2y - 6 = 0$ との距離の最小値を求めなさい。



37 [媒介変数表示の利用] x, y が $2x^2 + 3y^2 = 1$ を満たす実数のとき、 $x^2 - y^2 + xy$ の最大値を求めなさい。
 [黄チャート]

7 媒介変数表示

34 [三角関数による媒介変数表示] 2次曲線は媒介変数 θ と三角関数を用いて、次のように表せる。

(1) 円 $x^2 + y^2 = r^2$ の媒介変数表示

$$x = \overset{\text{ア}}{r} \cos \theta$$

$$y = \overset{\text{イ}}{r} \sin \theta$$

(2) 楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ の媒介変数表示

$$x = \overset{\text{ウ}}{a} \cos \theta$$

$$y = \overset{\text{エ}}{b} \sin \theta$$

θ は P の偏角であり、Q の偏角ではないことに注意。

(3) 双曲線 $\frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1$ の媒介変数表示

$$x = \overset{\text{オ}}{\frac{a}{\cos \theta}}$$

$$y = \overset{\text{カ}}{b \tan \theta}$$

これは公式 $\tan^2 \theta + 1 = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ に由来している。

(2), (3) に使われている媒介変数 θ を離心角とよぶことがある。

35 [媒介変数表示の利用] 楕円 $\frac{x^2}{6} + \frac{y^2}{4} = 1$ に内接し、各辺が座標軸に平行である長方形の面積の最大値を求めなさい。

解答 右の図のように長方形の頂点を A, B, C, D とする。

点 A の離心角を θ とし、点 A の座標を、

$$(\sqrt{6} \cos \theta, 2 \sin \theta) \quad (0 < \theta < \frac{\pi}{2})$$

と表す。

長方形 ABCD の面積を θ の関数として $S(\theta)$ と表すと、

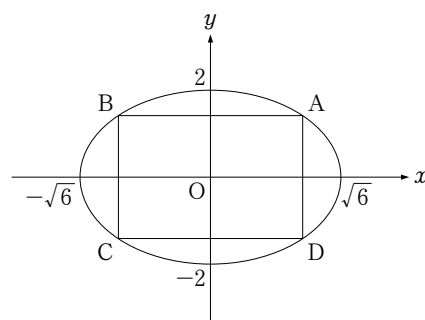
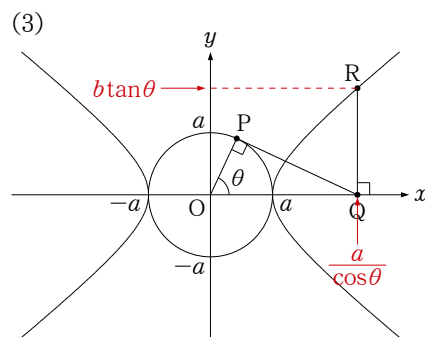
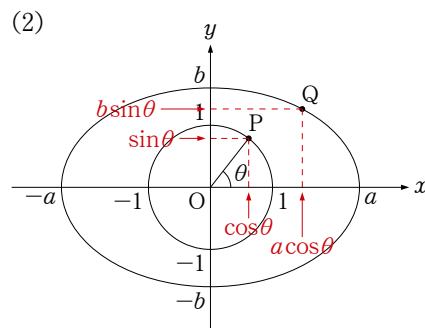
$$S(\theta) = 2\sqrt{6} \cos \theta \times 4 \sin \theta$$

$$= 8\sqrt{6} \sin \theta \cos \theta$$

$$= 4\sqrt{6} \sin 2\theta \quad \leftarrow 2 \text{ 倍角の公式を逆に使った}$$

$\sin 2\theta$ は $\theta = \frac{\pi}{4}$ のとき最大値 1 をとるので、

$$S(\theta) \text{ の最大値は、} S\left(\frac{\pi}{4}\right) = 4\sqrt{6} \quad \cdots \text{答}$$



36 [媒介変数表示の利用] 楕円 $\frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{4} = 1$ 上の点 P と、直線 $l: x + 2y - 6 = 0$ との距離の最小値を求めなさい。

解答 点 P の離心角を θ とし、点 P の座標を、

$$(3 \cos \theta, 2 \sin \theta) \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

と表す。

l と P との距離を θ の関数として $d(\theta)$ と表すと、

$$d(\theta) = \frac{|3 \cos \theta + 4 \sin \theta - 6|}{\sqrt{1^2 + 2^2}}$$

$$= \frac{1}{\sqrt{5}} \left| 5 \left(\frac{4}{5} \sin \theta + \frac{3}{5} \cos \theta \right) - 6 \right|$$

$$= \frac{1}{\sqrt{5}} |5 \sin(\theta + \alpha) - 6| \quad \left(\text{ただし、} \cos \alpha = \frac{4}{5}, \sin \alpha = \frac{3}{5}, 0 < \alpha < \frac{\pi}{2} \right)$$

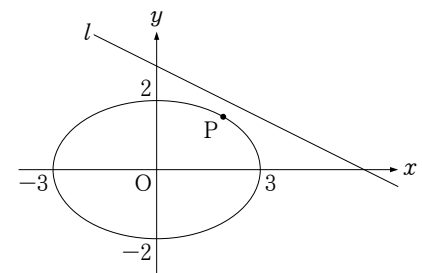
$$= \frac{1}{\sqrt{5}} \{6 - 5 \sin(\theta + \alpha)\}$$

$\sin(\theta + \alpha)$ は $\theta + \alpha = \frac{\pi}{2}$ のとき、すなわち $\theta = \frac{\pi}{2} - \alpha$ のとき最大値 1 をとるので、

$d(\theta)$ の最小値は、

$$d\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) = \frac{1}{\sqrt{5}} (6 - 5 \cdot 1)$$

$$= \frac{1}{\sqrt{5}} \quad \cdots \text{答}$$



37 [媒介変数表示の利用] x, y が $2x^2 + 3y^2 = 1$ を満たす実数のとき、 $x^2 - y^2 + xy$ の最大値を求めなさい。 [黄チャート]

解答 楕円 $2x^2 + 3y^2 = 1$ 上の点 (x, y) を、

$$x = \frac{1}{\sqrt{2}} \cos \theta, \quad y = \frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

と表す。

$$x^2 - y^2 + xy = \left(\frac{1}{\sqrt{2}} \cos \theta\right)^2 - \left(\frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta\right)^2 + \left(\frac{1}{\sqrt{2}} \cos \theta\right) \left(\frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta\right)$$

$$= \frac{1}{2} \cos^2 \theta - \frac{1}{3} \sin^2 \theta + \frac{1}{\sqrt{6}} \sin \theta \cos \theta$$

$$= \frac{1}{2} \cdot \frac{1 + \cos 2\theta}{2} - \frac{1}{3} \cdot \frac{1 - \cos 2\theta}{2} + \frac{1}{\sqrt{6}} \cdot \frac{\sin 2\theta}{2}$$

$$= \frac{\sqrt{6}}{12} \sin 2\theta + \frac{5}{12} \cos 2\theta + \frac{1}{12}$$

$$= \frac{\sqrt{31}}{12} \sin(2\theta + \alpha) + \frac{1}{12} \quad \left(\text{ただし、} \cos \alpha = \frac{\sqrt{6}}{\sqrt{31}}, \sin \alpha = \frac{5}{\sqrt{31}}, 0 < \alpha < \frac{\pi}{2} \right)$$

$\alpha \leq 2\theta + \alpha < 4\pi + \alpha$ より、 $\sin(2\theta + \alpha) = 1$ となる θ は存在する。

この θ の値において、 $x^2 - y^2 + xy$ は最大値 $\frac{\sqrt{31} + 1}{12}$ をとる。 $\cdots \text{答}$

2 複素数の極形式

20 [極形式] 0 でない複素数 $z = a + bi$ の表す点を P とする。動径 OP の長さを r とし、実軸の正の部分を開始とする OP の一般角を θ とする。

(1) z を r と θ で表すと、

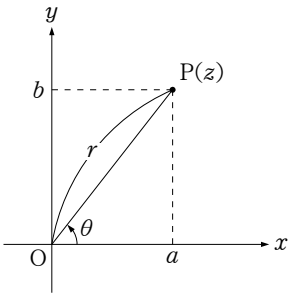
$z =$

これを複素数 z の という。

(2) $r =$ $=$

(3) 角 θ を z の といい, で表す。 \arg は^{ア-ギュメント}argumentと読む。

(4) $\cos\theta =$, $\sin\theta =$



21 [偏角] 次の複素数の偏角 θ を $0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で求めなさい。

- (1) $3 + \sqrt{3}i$
- (2) $-4i$

22 [標準形→極形式] 次の複素数を極形式で表しなさい。ただし、偏角 θ は $0 \leq \theta < 2\pi$ とする。

- (1) $1 + \sqrt{3}i$
- (2) $5 - 5i$

23 [共役複素数の絶対値・偏角] $|z| = r$, $\arg z = \theta$ のとき、次が成り立つ。

$|\bar{z}| =$

$\arg \bar{z} =$

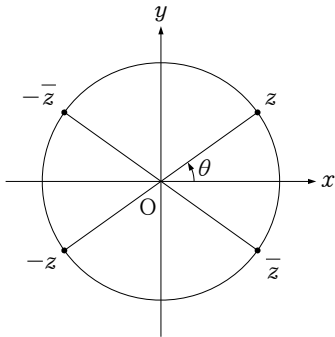
$|-z| =$

$\arg(-z) =$

$|\bar{-z}| =$

$\arg(\bar{-z}) =$

偏角についての等式は、 2π の整数倍の違いは無視して一致していることを示している。(合同式の \equiv と同じ)



24 [積・商の絶対値・偏角] 2 つの複素数 z_1 , z_2 の積と商について次が成り立つ。

$|z_1| = r_1$, $\arg z_1 = \theta_1$,

$|z_2| = r_2$, $\arg z_2 = \theta_2$ のとき,

$|z_1 z_2| =$

$\arg z_1 z_2 =$

$\left| \frac{z_1}{z_2} \right| =$

$\arg \frac{z_1}{z_2} =$

すなわち、

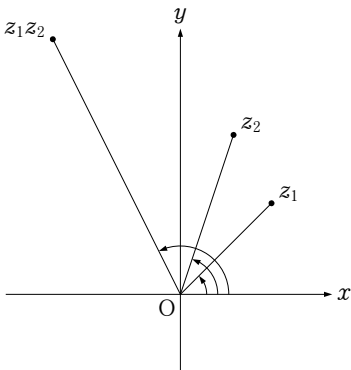
$z_1 = r_1(\cos\theta_1 + i\sin\theta_1)$, $z_2 = r_2(\cos\theta_2 + i\sin\theta_2)$ のとき,

$z_1 z_2 =$

..... ①

$\frac{z_1}{z_2} =$

..... ②



25 [積・商の絶対値・偏角] 24 の ①, ② を証明しなさい。

数学C 複素数平面のtutorial No.5

2 複素数の極形式

20 [極形式] 0 でない複素数 $z = a + bi$ の表す点を P とする。動径 OP の長さを r とし、実軸の正の部分を始線とする OP の一般角を θ とする。

(1) z を r と θ で表すと、

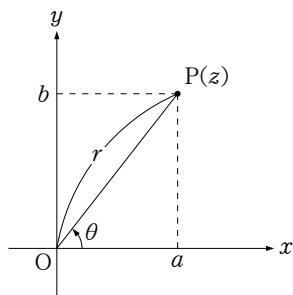
$$z = \boxed{\text{ア}} \quad r(\cos\theta + i\sin\theta)$$

これを複素数 z の $\boxed{\text{イ}} \quad \text{極形式}$ という。

$$(2) \quad r = \boxed{\text{ウ}} \quad |z| = \boxed{\text{エ}} \quad \sqrt{a^2 + b^2}$$

(3) 角 θ を z の $\boxed{\text{オ}} \quad \text{偏角}$ といい、 $\boxed{\text{カ}} \quad \text{arg } z$ で表す。arg は ア-ギュメント と読む。

$$(4) \quad \cos\theta = \boxed{\text{キ}} \quad \frac{a}{r}, \quad \sin\theta = \boxed{\text{ク}} \quad \frac{b}{r}$$



21 [偏角] 次の複素数の偏角 θ を $0 \leq \theta < 2\pi$ の範囲で求めなさい。

(1) $3 + \sqrt{3}i$

[解答] $z = 3 + \sqrt{3}i$ とすると、

$$|z| = \sqrt{3^2 + (\sqrt{3})^2} = 2\sqrt{3}$$

$$\cos\theta = \frac{3}{2\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\sin\theta = \frac{\sqrt{3}}{2\sqrt{3}} = \frac{1}{2}$$

よって、 $\theta = \frac{\pi}{6}$ … 答

(2) $-4i$

[解答] $z = -4i$ とすると、

$$|z| = \sqrt{0^2 + (-4)^2} = 4$$

$$\cos\theta = \frac{0}{4} = 0$$

$$\sin\theta = \frac{-4}{4} = -1$$

よって、 $\theta = \frac{3\pi}{4}$ … 答

22 [標準形→極形式] 次の複素数を極形式で表しなさい。ただし、偏角 θ は $0 \leq \theta < 2\pi$ とする。

(1) $1 + \sqrt{3}i$

[解答] $z = 1 + \sqrt{3}i$ とすると、

$$|z| = 2 \text{ より、}$$

$$z = 2\left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)$$

$$= 2\left(\cos\frac{\pi}{3} + i\sin\frac{\pi}{3}\right) \quad \dots \text{ 答}$$

(2) $5 - 5i$

[解答] $z = 5 - 5i$ とすると、

$$|z| = 5\sqrt{2} \text{ より、}$$

$$z = 5\sqrt{2}\left(\frac{1}{\sqrt{2}} - \frac{1}{\sqrt{2}}i\right)$$

$$= 5\sqrt{2}\left(\cos\frac{7\pi}{4} + i\sin\frac{7\pi}{4}\right) \quad \dots \text{ 答}$$

解答

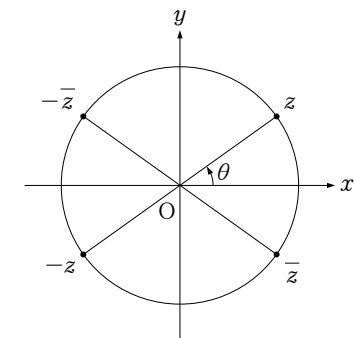
23 [共役複素数の絶対値・偏角] $|z| = r$, $\arg z = \theta$ のとき、次が成り立つ。

$$|\bar{z}| = \boxed{\text{ア}} \quad r \quad \arg \bar{z} = \boxed{\text{イ}} \quad -\theta$$

$$|-z| = \boxed{\text{ウ}} \quad r \quad \arg(-z) = \boxed{\text{エ}} \quad \pi + \theta$$

$$|-\bar{z}| = \boxed{\text{オ}} \quad r \quad \arg(-\bar{z}) = \boxed{\text{カ}} \quad \pi - \theta$$

偏角についての等式は、 2π の整数倍の違いは無視して一致していることを示している。(合同式の \equiv と同じ)



24 [積・商の絶対値・偏角] 2 つの複素数 z_1 , z_2 の積と商について次が成り立つ。

$$|z_1| = r_1, \quad \arg z_1 = \theta_1,$$

$$|z_2| = r_2, \quad \arg z_2 = \theta_2 \text{ のとき、}$$

$$|z_1 z_2| = \boxed{\text{ア}} \quad r_1 r_2 \quad \arg z_1 z_2 = \boxed{\text{イ}} \quad \theta_1 + \theta_2$$

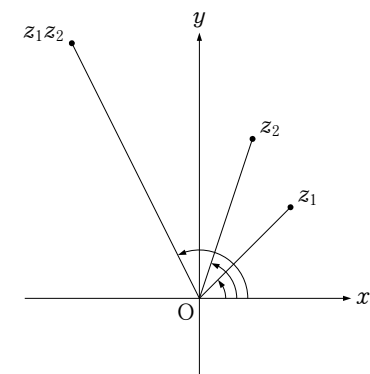
$$\left| \frac{z_1}{z_2} \right| = \boxed{\text{ウ}} \quad \frac{r_1}{r_2} \quad \arg \frac{z_1}{z_2} = \boxed{\text{エ}} \quad \theta_1 - \theta_2$$

すなわち、

$$z_1 z_2 = r_1 r_2 (\cos(\theta_1 + \theta_2) + i\sin(\theta_1 + \theta_2)) \text{ のとき、}$$

$$z_1 z_2 = \boxed{\text{オ}} \quad r_1 r_2 \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + i\sin(\theta_1 + \theta_2) \} \quad \dots \text{ ①}$$

$$\frac{z_1}{z_2} = \boxed{\text{カ}} \quad \frac{r_1}{r_2} \{ \cos(\theta_1 - \theta_2) + i\sin(\theta_1 - \theta_2) \} \quad \dots \text{ ②}$$



25 [積・商の絶対値・偏角] 24 の ①, ② を証明しなさい。

[解答] 三角関数の加法定理を使って証明する。

$$\begin{aligned} \text{① } z_1 z_2 &= r_1 r_2 (\cos\theta_1 + i\sin\theta_1)(\cos\theta_2 + i\sin\theta_2) \\ &= r_1 r_2 \{ (\cos\theta_1 \cos\theta_2 - \sin\theta_1 \sin\theta_2) + i(\sin\theta_1 \cos\theta_2 + \cos\theta_1 \sin\theta_2) \} \\ &= r_1 r_2 \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + i\sin(\theta_1 + \theta_2) \} \quad \dots \text{ 終} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{② } \frac{z_1}{z_2} &= \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{\cos\theta_1 + i\sin\theta_1}{\cos\theta_2 + i\sin\theta_2} \\ &= \frac{r_1}{r_2} (\cos\theta_1 + i\sin\theta_1)(\cos\theta_2 - i\sin\theta_2) \\ &= \frac{r_1}{r_2} \{ (\cos\theta_1 \cos\theta_2 + \sin\theta_1 \sin\theta_2) + i(\sin\theta_1 \cos\theta_2 - \cos\theta_1 \sin\theta_2) \} \\ &= \frac{r_1}{r_2} \{ \cos(\theta_1 - \theta_2) + i\sin(\theta_1 - \theta_2) \} \quad \dots \text{ 終} \end{aligned}$$